

日時：2008年7月5日（土）16：00～18：20

場所：東洋大学浦水会館2階

## 日本パーソナリティ心理学会第87回常任理事会

出席者：杉山，北村，浮谷，渡邊，川野，松田，有光

準備委員会：坂元

事務局：加藤

### 1 各種委員会報告

#### (1) 機関誌編集委員会（渡邊委員長）

##### ①編集委員会の開催状況

5月31日常任編集委員会合同会議を開催し、「パーソナリティ研究」第17巻1号の編集その他を審議した。

##### ②「パーソナリティ研究」第16巻3号の印刷状況について

6月24日に再校を国際文献印刷に戻し、現在印刷中である。

##### ③「パーソナリティ研究」第17巻1号の印刷状況について

5月31日の合同会議で掲載論文を決定した。

掲載番号	審査番号	種別	題目	筆頭者	受稿	受理
17-1-1	A-156E	特集原著	教室における児童間対立の形成過程に関する事例研究	澤邊潤	2007.5.30	2008.4.13
17-1-2	A-140E	原著	バランス型社会的望ましさを反応尺度日本語版(BIDR-J)の作成と信頼性・妥当性の検討	谷伊織	2007.1.17	2008.2.26
17-1-3	A-165E	原著	自己愛人格傾向についての素因—ストレスモデルによる検討	小西瑞穂	2007.9.24	2008.2.28
17-1-4	A-143E	原著	資源の認知と活用を考慮したResilienceの4側面を測定する4つの尺度	井隼 経子	2007.3.18	2008.2.28
17-1-5	A-166E	原著	反社会性人格障害傾向者における遅延ならびに確率による報酬の価値割引	佐藤徳	2007.9.24	2008.5.1
17-1-6	A-161E	原著	自己志向的完全主義と攻撃性および自己への攻撃性の関連の検討	齋藤 路子	2007.8.31	2008.5.26
17-1-7	B-32E	資料	罰の回避と報酬への接近の感受性を測定する3尺度の比較	高橋 雄介	2007.4.27	2008.2.20
17-1-8	B-A-158E	資料	社会的自己制御(Social Self-Regulation)尺度の作成	原田知佳	2007.8.1	2008.5.15
17-1-9	S-108E	ショートレポート	サポートへの期待と受容のズレと、自尊心および抑うつとの関連	亀山晶子	2007.5.16	2008.2.14
17-1-10	S-116E	ショートレポート	閾下呈示されたプライム刺激と結果の一致性が作者感ならびに意志感に及ぼす影響についての検討	佐藤徳	2007.8.15	2008.2.26
17-1-11	S-124E	ショートレポート	青年期における劣等感と自己志向的完全主義との関連	高坂康雅	2008.1.21	2008.4.8
17-1-12	S-115E	ショートレポート	感情鈍磨現象の2様態	金山範明	2007.8.7	2008.4.25
17-1-13	S-123E	ショートレポート	統合失調型における注意抑制の非対称性	伊藤慎也	2008.1.18	2008.5.7
17-1-14		依頼論文	Animal Personality	S.D.Gosling		2008.5.20

④投稿状況について

年	月	原著	資料	ショートレポート	展望他	合計	備考
	7	0	2	2	0	4	
	8	5	0	2	0	7	
	9	5	0	1	0	6	
	10	2	1	3	0	6	
	11	5	1	1	0	7	
	12	0	1	1	0	2	
2008	1	4	0	2	0	7	
	2	6	0	2	0	8	
	3	2	1	0	0	3	
	4	3	1	2	0	6	
	5	1	1	2	1	4	
	6	4	1	1	1	7	
	合計	37	9	19	2	67	

⑤「パーソナリティ研究」第17巻2号について

採択済論文が4本（原著2，資料1，ショートレポート1）あり，修正採択修正中が4本（原著2，資料1，ショートレポート1）ある。

⑥その他

1) 掲載論文の決定について

常任編集委員合同会議が委員の多忙などで開催できない場合にメールによる持ち回りで「合同審議」を開催し審査結果を確定できるように，機関誌編集委員会「論文掲載のための審査および採択・不採択に関する内規」を以下のように改正することが提案され，承認された。また，編集委員会内規等は，常任理事会の承認事項として扱うべきだという意見が出され，承認された。

（現行）

10. メール審議では，電子メールを用いて一種の「公開持ち回り方式」で審議を行う。  
合同審議では，常任編集委員が一堂に会して審議を行う。

（改正）

10. メール審議では，電子メールを用いて一種の「公開持ち回り方式」で審議を行う。  
合同審議では，常任編集委員が一堂に会して審議を行う。ただし編集委員長がやむを得ないと判断したときには，電子メールによって合同審議を行うこともできる。

2) 校閲謝金の改訂について

「パーソナリティ研究」刊行に関わる校閲謝金を以下のように改定することが提案され，英文校閲，初稿校閲，ともに承認された。なお，英文校閲，初稿校閲担当者が長期にわたって固定されており，任期を決め，再任の確認をした方がよいとの意見が出された。

\*英文校閲：英文アブストラクトの校閲については以下のように改訂し，17巻1号より適

用する。

(現行) 原著等 1本 3000円, ショートレポート 1本 1000円

(改訂) 原著等 1本 3000円, ショートレポート 1本 2000円

16巻3号を例にとると, 現行基準では43000円, 新基準では44000円となる。

\*初校の校閲: プロエディターによる初校の校閲については以下のように改訂し, 15巻3号より適用する。

(現行) 100ページを基準に40000円

(改訂) 100ページを基準に40000円を最低保証

100ページ超過分については1ページあたり400円を加える。

### 3) 次期編集委員の推薦について

次期編集委員推薦に係わる事務処理については村井潤一郎機関誌編集副委員長が担当する。なお, 編集に関わる作業には個人アドレスの使用は避けるべきだという意見が出され, メールアドレスを編集委員会宛とした。

## (2) 経常的研究交流委員会 (北村委員長)

### ①委員会

6月15日(日)、大会時企画、それ以外の企画について話し合った。

### ②大会企画

1) 「医療心理学におけるパーソナリティ (仮題)」企画担当 小林 知博

2) 教育における「個人と集団」 企画担当 加藤弘道

司会 加藤 弘道 (静岡大学)

### ③大会以外の企画

担当者 伊藤 匡

「写真はパーソナリティをいかに記述するか」鬼海弘雄氏の写真について  
2009年2～3月開催を予定している。

### ④委員構成

北村英哉 (東洋大学)、伊藤匡 (東京大学)、加藤弘通 (静岡大学)、小林知博 (神戸女学院大学) 青林 唯 (千葉大学)、文野 洋 (東京都立大学)、森本幸子 (仙台白百合女子大学)  
2008年度からの新委員 中川明仁 (同志社大学)、森 津太子 (放送大学)、薊理津子 (聖心女子大学)、佐藤史緒 (東洋大学) 承認された。

## (3) 広報委員会 (資料提供のみ)

### ①大会企画

1) 「ポストクの将来設計の現状と展望 ～多様なキャリアパスと学会の役割」

2) ヤングサイコロジストプログラム

\*参加資格基準の確定

「日本パーソナリティ心理学会会員であり、学部または大学院在籍者、もしくは学部卒業または大学院修了5年以内」

## ②広報の活動への意見

広報活動の意見として以下のような意見が出された。

- ①広報委員会は当学会の唯一の広報窓口であり、学会としての広い意味での社会貢献、対外貢献視点を持って行動する必要がある。
  - ②事件が起こった時に、それに対する研究者としての視点の提供ができないか
  - ③一般市民とのコミュニケーションの場を設けてはどうか
- 等の意見が出された。

## (4) 国際交流委員会（資料提供のみ）

### ①ARP ニュースレター

### ②Gosling 先生のレビュー論文

Sam Gosling 先生のレビュー論文が渡邊編集委員長に届けられた。

### ③出版依頼訳本について

- ・ Yuichi Shoda, Daniel Cervone, Geraldine Downey (2007). *Persons in Context: Building a Science of the Individual*. Guilford Pr. の訳本企画。
- ・ 現在、日米の出版社間で契約交渉中。出版社より動きの連絡なし。

## (5) 選挙規程委員会（浮谷委員長）

現在、名誉会員の規程についての準備をしている。

## (6) 大会活性化委員会（川野委員長）

前回の常任理事会で決定したことを引き継ぎ、優秀賞の決定過程の詳細を詰めている。

## 2 2007 年度決算案・2008 年度予算案（藤田常任理事に変わり浮谷常任理事）

2007 年度決算案・2008 年度予算案が別紙にて提案され、金額を修正し、承認された。

## 3 日本心理学諸学会連合（理事長）

資格検討委員会における報告と提案（特に二資格一法案）について説明された。

## 4 臨床発達心理士関係（理事長）

### (1) 認定運営機構（理事長）

2008 年度理事会組織で、子安新理事長が選出され、本学会から、菅原常任理事が常任理事として、川野常任理事が理事として選出された。

### (2) 資格認定委員会

特になし

### (3) 機構との関係の今後について（理事長）

これまでの常任理事会の話し合いを受けて、認定運営機構での一定の役割は果たしたとの認識が示され、できるだけ早い時期に（相手があることなので、次期は示さないが、今年度末を想定）機構より脱退することが提案された。

1) 脱退の前提として、臨床発達心理士資格を持つ会員の数、直接的不利益の無いことの確認。

2) 脱退理由として、2, 3の理由が検討された。討議の結果「学会連合資格を立ち上げるという役割は、現時点で、一定の貢献を果たした」として脱退する。

3) 脱退手続きとしては、入会時も常任理事会決定であり、常任理事会決定として実行する。決定の通知、会員への周知は、速やかに行うこととして、議事録が調い次第、文書で機構に通知し、議事録を基に広報を通じて、会員にアナウンスする。

以上が検討され、承認された。

## 5 第17回大会について（坂元大会準備委員長）

- ① Dan P. McAdams（ノースウェスタン大学教授）
- ② Craig A. Anderson（アイオワ州立大学 Distinguished Professor）
- ③ 藤永保（日本教育大学院大学学長）
- ④ 準備委員会企画シンポジウム：
- ⑤ 日本臨床発達心理士会企画シンポジウム  
タイトル：発達障害児者のパーソナリティをふまえた発達支援をいかに行うか
- ⑥ 広報委員会企画シンポジウム
- ⑦ 経常交流委員会企画シンポジウム（企画中）

## 6 事務局報告（加藤事務局長）

### ① 新入会員

大会発表申し込み期限に間に合うように提出され、ML会議で承認された新入会員は44名。承認された。

### ② 会勢報告（6月20日）

賛助会員1名 名誉会員5名 一般会員527名 院生会員241名 学生会員3名 計777名

### ③ 2008年度の国際文献との契約

わずかな変更点があり、承認された。

### ③ 第86回常任理事会議事録

承認された。

## 7 その他

なし

次回 10月18日（土）15:00 東洋大学